

ハワイコナワエナ高校と 久米島高校の交流事業

平成 27 年度 報告書



前村幸秀人材育成基金助成事業

目次

1. 行程表.....	1
2. ハワイコナワエナ高校と久米島高校の交流事業概要.....	2
3. 生徒報告書.....	8
仲道 嶺賀.....	8
糸数 力戸.....	11
宮平 美鈴.....	13
4. OTEC ワークショッププレゼンテーション原稿.....	16

- 派遣期間：2015年8月4日（火）～8月25日（火）
- 派遣先：アメリカ合衆国ハワイ州コナ市（ハワイ島）、ホノルル市（オアフ島）
- 派遣生：仲道 嶺賀（普通科1年）
 宮平 美鈴（普通科2年）
 糸数 力戸（園芸科2年）
- 引率者：比嘉 太一（久米島高校教諭）

1. 行程表

8月4日(火)	久米島～那覇～関西国際空港～ホノルル～コナ ホストファミリーの出迎えを受け、各自ホームステイ先へ
8月5日(水)	ホストシスター、ブラザーとともに高校生活
8月8日(土)	祝日：各自ホストファミリーとの休日
8月9日(日)	コナ沖縄県人会主催の昼食会
8月11日(火)	ビリー・ケノイ郡長表敬訪問
8月14日(金)	コナ市内視察：NELHA、UCC コーヒー農園
8月15日(土) 8月16日(日)	各自ホストファミリーとの休日
8月17日(月) 8月20日(木)	ホストシスター、ブラザーとともに高校生活
8月21日(金)	コナ～ホノルル ポリネシア文化センター見学
8月22日(土)	ホノルル市内見学
8月23日(日)	ホノルル発
8月24日(月)	中部国際空港～那覇(那覇泊)
8月25日(火)	那覇～久米島

2. ハワイコナワエナ高校と久米島高校の交流事業概要

(引率者：久米島高校教諭 比嘉 太一)

1) 経緯

2011年に海洋深層水の研究施設を持つ米国ハワイ州ハワイ郡と久米島町が姉妹都市提携を結び、産業や教育、文化の各分野で共同プロジェクトを行っていくこととなり、2013年にコナワエナ高校と久米島高校の交流事業が始まった。今年で本交流事業は3年目を迎えている。交流事業の内容としては久米島高校の夏期休暇期間に生徒3名(園芸科1名、普通科2名)をコナワエナ高校に派遣し、英語能力の向上と、異文化経験を通して、国際社会でも活躍できる人材を育成することを目的としている。

今年度は、8月4日(火)～8月25日(火)の3週間の日程で実施した。そのうちハワイ郡コナ地区でのホームステイを17日間行い、ホノルル研修を2日間行った。今年度は、普通科から仲道嶺賀さん

(1年)、宮平美鈴さん(2年)、園芸科から糸数力戸君(2年)の3名が派遣された。糸数君は本事業初の男子の派遣生である。派遣費用は久米島町の「前村幸秀人材育成基金」より助成を受けており、生徒の自己負担分は事業総額の1割である。



〔派遣前には町長・副町長を表敬訪問した。〕

2) 事前学習

事前学習では、英語力向上のため久米島高校 ALT カルメン先生による英会話講習を行ったほか、姉妹都市提携を結ぶきっかけとなった海洋深層水とその関連施設について学ぶため、沖縄県海洋深層水研究所を見学した。また、第6回海洋温度差発電ワークショップでその活用法について英語でプレゼンテーションを行うための資料作りのために、(株)ゼネシス エンジニアリンググループの岡村壺氏を招いて情報交換会も行った。



〔海洋深層水研究所で事前学習に取り組む生徒たち〕

3) ハワイ島コナ地区滞在

コナワエナ高校はハワイ島西部のコナ地区に位置し、1年生から4年生（ハワイ州の高校は4年制）までの生徒数が約750人のハワイ州においては比較的小規模な高校で、ネイティブハワイアン、日系、メキシコ系、ポリネシア系の生徒や、それらの地域から移住してきた生徒も数多く在籍している。コナ地区の中でも歴史の古い学校であり、創立94年目を迎えている。小規模校ではあるがスポーツがとても盛んであり、女子バレーボール部や女子バスケットボール部は州大会を何度も制覇したことがある強豪チームである。



<コナワエナ高校での高校生活>

ハワイ島での滞在中、3名の派遣生はホストファミリーの家にホームステイをしながら、コナワエナ高校での学校生活とアメリカにおける日常生活を体験した。今年度のホストファミリーは全家庭が初めて受け入れをしてくれており、アリー・ヤマカワさん、トリー・オオシロさん、デレク・オギ君と全員が日系の生徒であった。全員が日本語の授業を選択しており、派遣生たちは毎日ホストスチューデントと日本語を始めとした様々な授業に参加した。久米島高校と異なり80分という時間の長さにとまどいを見せることもあったが、ハワイの学生が全ての授業で積極的に発言をする様子や主体的に学習に取り組む様子に感銘を受けていた。放課後にはホストスチューデントや友人たちと一緒に市街地に出かけたり、休日にはホストファミリーにビーチやキラウエア火山へ連れて行ってもらったりと、久米島では経験できない貴重な体験を行うことができた。

また、高校に隣接するコナワエナ中学校にも訪問し、中学校の日本語の授業や音楽、ELL（英語を母語としない学生向けのクラス）の授業にも参加させていただき、久米島の紹介や三線・歌を披露し、生徒たちとの交流を行った。



〔中学校の生徒達との集合写真〕



〔校内放送で三線を披露する派遣生〕

<コナ地区沖縄県人会との交流>

8月9日の日曜日は、コナ地区沖縄県人会の方々から昼食会に招待していただいた。派遣生やホストファミリーを含めて約50名程度集まり、多くの県人会の方々を持ち寄ったハワイ料理や沖縄料理を楽しみ、サーターアンダギーを一緒に作るなど交流を楽しんだ。県人会の方は空手やウクレレを披露し、派遣生は三線で「安里屋ユンタ」を披露した。また、手作りのうちなーぐちビンゴゲームを楽しみ、遠い異国の地でも故郷に対して思いをはせるうちなーんちゅとしての絆を感じることができた。



〔昼食会でのサーターアンダギー作りと県人会の方々との集合写真〕

<ケノイ郡長表敬訪問>

8月11日には、ビリー・ケノイ郡長に表敬訪問を行った。郡長からは久米島とコナの提携の中でも学生同士の人的交流は今後も受け継がれていくべき最も重要なものであり、昨年度は日程の都合上実現しなかったが、今年はコナワエナ高校の生徒4名(昨年度ホストファミリーのダニエル・ウエムラさんを含む)を久米島に派遣することを確認した。



<第6回海洋温度差発電ワークショップ>

8月19日(火)には毎年ハワイと久米島で交互に開催される第6回海洋温度差発電ワークショップに参加した。久米島町からも大田町長を始めとして約30名の参加があり、ハワイからの参加者を含め約70名が参加した。このワークショップに向けて派遣生はハワイ到着後も英語の原稿作成に取り組み、内容の推敲をホストファミリーとともに行き、当日英語でのプレゼンテーションを行った。10分という厳密な制限時間もあり緊張した様子ではあったが、「久米島高校が海洋温度差発電研究所の隣に移設されたら」というタイトルで、久米島高校魅力化の一環として宮平美鈴さんは海洋深層水

を用いた冷房設備の設置について発表し、仲道嶺賀さんはバーデハウスのような施設を学校に併設することで部活動の活性化、生徒の健康増進につながると発表した。また、園芸科の糸数力戸君は海洋深層水を冷媒として土壌の冷却を行うことでイチゴを始めとした久米島では現在栽培できない農作物を栽培し、地域の方々へ販売することで地域に貢献したいとの内容を発表した。発表終了後は同ワークショップに参加したNELHA 職員や佐賀大学の池上教授からもお褒めの言葉をいただいた。生徒達も夏休み前からリサーチを行い、まとめた内容を英語で発表し、自信につながった様子が見えられた。また、夜にはコナ沖縄県人会の方々主催したウェルカムパーティーが開催され、ビリー・ケノイ郡長を始め、NELHA の関係者等、多くの方々に久米島町からの参加者を歓迎していただいた。



〔英語でプレゼンテーションする派遣生とウェルカムパーティーの様子〕

4) ホノルル研修

8月21日にはコナでのホームステイを終え、オアフ島ホノルル市に移動した。ハワイ島を出発する際には多くのホストファミリーが空港まで見送りに来ていただき、久米島での再会を約束した。ホノルルに到着後ホノルル市内に移動しポリネシア文化センターへ向かった。ポリネシア文化センターでは、ハワイを始めたとしたポリネシア地域の文化と民族性の違いを体験した。ハワイの文化がポリネシアの様々な地域や人々によって形成されたことや、それぞれの地域が独自の文化や生活習慣を有していることを学んだ。また、夜にはポリネシアの様々な地域の文化を取り入れたショーを観劇し、その迫力に圧倒された。



〔ポリネシア文化センターにて〕

ホノルル 2 日目にはホノルル市内を観光した。午前中にはダウンタウンを回り、カ

メハメハ大王像やイオラニ宮殿を車窓から見学した。午後にはダイヤモンドヘッドを一周するコースを回り、観光用の 2 階建てバスからハワイの雄大な景色を楽しんだ。

また、ワイキキビーチやアラモアナショッピングセンターなど世界でも有数の観光地を回り、人の多さに圧倒されながらも、大都市の雰囲気を経験したことも生徒達にとって貴重な経験となった。

最終日には全員で早起きし、東京でも人気のハワイアンブレックファーストのレストランを訪れ、パンケーキやアサイーボウルなどハワイの朝食文化を体験した。



〔ワイキキビーチのデューク・カハナモク像前にて〕

5) 帰国後

帰国後に派遣生は 9 月 11 日の久米島高校オープンスクールで、島内外の中学 3 年生を対象にハワイ交流事業についての紹介を行った。ハワイ滞在中に経験したことや学んだことをそれぞれの言葉で伝えるだけでなく、久米島高校の大きな魅力の一つである本事業について中学生の積極的な参加を呼びかけていた。また、帰国後は英語の授業等を利用し、それぞれのクラスメイトに対してハワイでの経験を伝え、他の生徒にも刺激を与えていた。派遣生自身も帰国後学習に積極的に取り組む態度や物事に主体的に取り組む姿勢が見られ、本交流事業を通して大きく成長した姿を見ることができた。



〔オープンスクールで発表する派遣生〕

6) おわりに

今回引率者として本事業に参加し、生徒達が異文化に適応していく様子を間近で見ることができ、改めて 10 代という若い時期に異文化を経験することで、生徒達は多くの刺激を受け、想像以上の成長を遂げることができると実感した。私自身、中学、高校、大学とアメリカへの留学を経験することで英語教師の道を目指した経緯があり、わずか 3 週間という短い期間ではあるが、今回参加した生徒達にとっても今後の人生や進路を形成するうえで非常に有意義な交流事業であったと感じた。特に英語でのプレゼンテーションの中で久米島の持つ課題や特性をそれぞれが考え、自らの言葉で表現することで英語の持つ可能性と、故郷である久米島に対しての郷土愛も感じるこ

ができたと考える。

本交流事業は前村幸秀人材育成基金の支援を受け、高校や町の代表として自らの文化を伝える役割があるという点で沖縄県内の高校が行う交換留学とは大きく異なる。まだ始まって3年足らずの交流事業ではあるが、久米島高校の大きな魅力の一つであり、今後の久米島町を支える国際人の育成という大きな役割を持った事業であると感じた。また、生徒達も今回の事業に町の多くの方々に関わり、久米島町に支援されて今回の経験ができていることを自覚し、久米島町の代表としての責任と誇りを学ぶことができたと思う。今後も本交流事業を通して多くの久米島高校の生徒達が将来久米島を支える人材へと成長していくことを久米島高校全体で支援し、久米島高校が一丸となって久米島町の発展に貢献していかなければならないと強く感じた。

最後に、本交流事業の実施にあたり尽力して下さった大田治雄久米島町長、吉野剛教育長、久米島町職員や前村幸秀人材育成基金の関係者の方々をはじめ、コナワエナ高校関係者、コナ沖縄県人会、ホストファミリーの皆様など本事業に携わっていただいたすべての方々に心より感謝を申し上げたい。

3. 生徒報告書

ハワイコナワエナ高校と久米島高校との交流事業に参加して

久米島高等学校 普通科1年

仲道 嶺賀



私はこの夏、今までで一番充実した夏休みを過ごすことができました。それは、交流プログラムに参加することができたからです。

私がこの交流プログラムに参加した理由は、自分自身の英語力をアップさせたいことと、久米島から外に出てみて、こことは違う文化や習慣を知りたいと思ったからです。また将来は英語に関わる仕事や、外国で仕事をしたいなども思っているので海外のことをもっと知りたいというのも応募した理由です。

今回の交流では、ハワイで開催される海洋深層水のワークショップで私たち高校生もプレゼンをすることになり、出発の日まではほぼ毎日学校に通って準備をしました。もちろん英語でのプレゼンなので、日本語から英語に翻訳したりという作業がとても大変でしたが、何とか間に合わせることができました。また Carmen 先生との英会話レッスンもたくさん行うことができました。

少し不安がありながらも出発の日を迎えました。1日で4回の乗継はとてもきつかったのですが、これから3週間どんな生活が待っているのだろうか？と考えるとなんだか疲れが吹っ飛んだ気がしました。コナに着くと、沖縄県人会の人達とコナワエナ高校の校長先生が出迎えてくれました。気候が沖縄ととても似ていてハワイに来たという実感はあまりしませんでした。出迎えられてすぐに首にお花のレイをかけてもらったり、ハグやキスをしてもらい、日本とは違う文化なので、ああこれが外国なんだなとおもいました。学校に着くと次はホストファミリーが出迎えてくれて、また嬉しい気持ちになりました。ファミリーと対面した後は各自ステイ先へ移動して、いよいよホームステイ生活のスタートです！

<ホストファミリーとの生活>

8月5日(水) 初めてのコナワエナ高校登校の日！登校してすぐシスターの友達を紹介してもらいました。みんなとてもフレンドリーで優しく接してくれて、すぐに馴染むことができました。高校での授業は80分で長かったけど、生徒たちは誰一人居眠りせず、積極的に授業を受けていて見習いたいなと思いました。

8月6日(木) もうひとりのシスターの家でホームパーティーをしてくれました。ご

ちそうが沢山あってとても幸せな時間でした。またディナーの後はみんなとトランプやUNOをしました！英語でゲームの説明をしてくれたけれど私たち3人が理解できていないことが分かったようで、ジェスチャーを使ったりして親切に教えてくれました。自分の英語力の低さがよく分かり、もっと勉強しないといけないなと思いました。でも親切に教えてもらえたおかげで楽しくゲームに参加でき、みんなの仲もより深まったと思います。



8月15日（土） 朝6時半に家を出発して、ホストファザー・マザーとハワイ島観光へ！真黒な砂があるビーチや、活火山、滝を見に行ったりショッピングに行ったりしてハワイ島を約12時間かけて一周しました。久米島では見ることのできない火山や綺麗な景色が見れてとても満足できました！

8月19日（水） 今日待ちに待ったプレゼンの日。初めての英語でのプレゼンだからということもありますが、しっかり自分の英語が現地の人に伝わるかという不安でずっと緊張していました。いよいよ私たちの番が回ってきました。発表中はみんなが真剣に聞いてくれて、終わった後は沢山の拍手をもらうことができました。プレゼン後はいろんな人から上手だったよ！と言われ、嬉しかったです。準備は大変でしたが、沢山のの人に褒めてもらえたので、頑張ってたかったなと改めて思いました。

8月20日（木） コナワエナ高校、最後の日。校内の色々なところを見学しながら、久米島メンバーで校長先生から貰ったおそろいのTシャツを着て写真を撮りました。約2週間の高校生活だったけれどとても短く感じ、校内を回りながら、もっといたいなと思いました。本当に楽しいコナワエナ高校での生活でした。



今回この交流プログラムを通して、ハワイの文化や習慣はもちろんです、海外の日本とは違った高校生活を体験することができ、とてもいい経験になりました。また生の英語に耳が慣れ、だんだん言葉が聞き取れるようになり、自分自身で英語力が上がったなと実感もできました。このプログラムでは本当に様々な経験をすることができました。私がハワイで経験したことを周りの人にたくさん伝えていきながら、またこれを生かして、生まれてからずっとお世話になっている久米島に何か恩返しができるといいです。

この交流プログラムが何年も続くことを願っています。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



ハワイコナワエナ高校と久米島高校との国際交流事業に参加して

久米島高校園芸科2年

糸数 力戸

僕は、この夏休みとても忘れられない素晴らしい体験ができました。初の海外で不安もありました。ですが、本場の英語や文化にも触れる事ができたので、とてもいい経験でした。それも、協力してくれた先生や親のおかげなので感謝していきたいです。

僕がこの国際交流事業に参加した理由は、最初は先生の勧めだったのですが元々英語が好きだったので面白そうだなと思い参加しました。

ハワイに行く前は、事前学習として海洋深層水や海洋温度差発電の事を勉強しました。普段は学ぶことの出来ない海洋温度差発電の仕組みや海洋深層水の事はとても難しかったです。その後には、プレゼンの準備をしました。

プレゼンの準備も終わり、8月4日僕たち3人はハワイに出発しました。ハワイに着くとコナの県人会の人たちとショーン校長が温かく出迎えてくれました。レイをかけてくれてとても嬉しかったです。

空港から学校に行くとホストブラザーのデレック君とおじいさんが待っていました。不安な僕に積極的に話しかけてくれた時はほっとしました。家に帰るとホストファミリーが歓迎してくれました。デレック君は日系人で少し日本語が喋れたので難しい英語は教えてもらいながら会話をしていました。

ハワイの2日目、この日は初めて学校に登校する日でした。この日は、日本語のクラスがありました。日本語のクラスでは日本人には簡単な日本語を一生懸命勉強していました。

僕がハワイの学校で驚いたのは、二つあります。1つ目は、日本とは違い生徒一人一人が積極的に聞かれた質問にも恥ずかしがらず自信を持って答えていました。自分は普段そんなに発表なども積極的じゃないので見習おうと思いました。2つ目は、ハワイの高校では授業の間の休み時間が短いので移動するときはとても大変でした。それに、友達もみんなフレンドリーで気軽に声をかけてくれました。その友達は頑張って日本語で挨拶してくれたのでとてもうれしかったです。

2日目の夜は、美鈴さんのホストファミリーの家でバーベキューをしました。雨が降っていましたがみんなとゲームなどして遊びました。とっても楽しかったです。

ハワイに着いて最初の土曜日、三人とデレックとアリーで海に行きました。久米島の海とは違い波が高く、水かさも深く驚きました。その後にトリーのお母さんが UFO パラセーリングというアトラクションを予約してくれました。UFO パラセーリングとは船でパラシュートを吊って空を飛ぶというアトラクションです。初めての体験だったので凄く楽しかったです。トリーのお母さんにはとても感謝しています。それから、その日はデレック君の太鼓の発表会がありました。発表会の時のデレック君はとてもカッコよくて迫力がありました。

そして、僕たち 3 人はハワイ郡の郡長さんの所にも行きました。郡長さんは明るくてとても優しい人でした。このプログラムに関してもすごく褒めていました。

そして、休日には県人会主催のピクニックがありました。県人会の方々が料理やゲームなどで楽しませてくれました。そのお礼に、僕たちは三線を披露しました。そこでは、沖縄からハワイに越してきた人たちなどから昔の話いろいろを聞きました。とても勉強になり楽しかったです。

休日が終わると、僕たちは中学校に行きました。中学校では英語を主としない生徒の授業や音楽の授業にも参加してウクレレなどを習いました。ウクレレは難しくてみんな悪戦苦闘していました。最後にはみんなで写真撮影をして別れました。

最後の週の休日にはアリーのお父さんが火山やショッピングなどのドライブにつれて行ってくれました。その日は、天気が良くて、火山も迫力がありとても良い一日でした。

僕たちが、ハワイに来たのはただ交換留学しにきたのではありません。ハワイで行われる海洋温度差発電ワークショップに参加するためでもありました。ワークショップでは三人が一人ずつプレゼンをしました。そのプレゼン内容はもし久米島高校が OTEC の隣あったらという設定で様々な視点から考え発表しました。僕は園芸科なので園芸に関する事を発表しました。ワークショップに大田町長はじめ海洋深層水に事業に関わっている方々がたくさん来ていました。

プレゼンが終わると僕達のプレゼンを聞いて「良かった」と言ってくれました。その時は、とても嬉しかったです。ワークショップが終わると久米島の人を歓迎する食事会があり、そこではハワイの音楽やフラダンスなどが行われていてとても楽しかったです。

プレゼンも終わり、僕たちは、帰る日が迫ってきていました。帰る前日にはデレックの友達とボウリングに行きました。デレックの友達はとてもいい人ばかりで最後にいい思い出が出来たな思いました。

いよいよ別れの日が来ました。見送りには校長先生も来ていました。校長は最後に絶対また来てねと言ってくださりとても嬉しかったです。

デレックのお母さんやお父さんなどにとっても迷惑をかけたかもしれませんが、けど最後にまた、会いましょうと言ってくれました。僕がこのような、いい体験が出来たのも久米島町をはじめ、前村幸秀人材育成基金や教育委員会それから先生方、家族と、たくさんの協力があって実現しました。なので、この感謝の気持ちを忘れないようにしていきたいです。



ハワイコナワエナ高校と久米島高校との国際交流事業に参加して

久米島高校普通科2年

宮平 美鈴

今回、私がこの国際交流事業に参加させていただいたことに心から感謝します。本当にありがとうございました。

3週間という短い期間の中で、私はこれまでにない多くの経験を得ることができました。初めてのハワイ、そこには常に新しい発見があり、誰ももの価値観を変えさせる原動力が確かにありました。

ホームステイ

ハワイ島コナ区でのホームステイでは、Ohshiro Family にお世話になりました。Ohshiro Family は、ホストファザーが沖縄の3世、ホストマザーが広島の子孫の日系人の家族でした。ホームステイ中で私が1番印象に残っているのは毎日の夕食の時間です。彼らにとって食卓は、コミュニケーションをとる場でもあります。私も毎日会話の輪に加わるようになって最初はぎこちないものでしたが、私のつたない英語を熱心に聞いてくれたり、私が聞き取りやすいようにゆっくり喋ってくれたりそういう気遣いを通して、段々コミュニケーションをとることがただただ楽しいと思えるようになり積極的に会話にチャレンジすることができました。それからは、お互いの家族や沖縄、久米島のことを話しました。そのことを遠く離れたハワイの地で日本人の血を引いた彼らがとても興味を持って聞いてくれたことには感慨深いものがありました。約2週間という短い期間でしたが、1日1日が充実した日々をおくることができました。

学校生活

コナワエナ高校での学校生活は、毎日が驚きと戸惑いの連続でした。日本の一般的な学校とは何もかもが違ったからです。まず、校則とみられるものがほとんどなく生徒たちは、制服ではなく私服でそれとかなり露出が高い服装をしている人や、タトゥーを入れている人、化粧をしている人もいたり個性を尊重する文化が根付いているためかファッションの面ではかなり寛容でした。違った意味で驚いたのが生徒達の授業態度です。先生の質問に皆が自主的に答えたり、質問が無くても疑問があれば積極的に手を挙げたりなど皆が「学ぶ」ということに貪欲な印象でした。また、1回80分という日本よりも長い授業を受けているのにも関わらず、居眠りをしている人が誰一人いなかったことにはとても感心しました。日本の方が教育の面では、勝っていると思っていました。たしかに制度は整っているのですが、「学ぶ」という姿勢では日本よりも意識が高いのではと思いました。しかしその一方で、授業中に化粧をしている人がいたり、スマートフォンを使用している行動も目立っていました。スマートフォンに関しては、先生によって許容範囲が違っていたので生

徒が注意を聞かない傾向がありました。その点では、メリハリをきちんとつけている日本の学校システムの良い点だと思いました。授業以外での時間では私と同世代の子達の交流の機会がたくさんあり、若者らしいクリエイティブさと日本ではあまりみられない物事に対するの考え方に触れることができとても新鮮でした。国際的な視野を養えられ、私にとって良い刺激になりました。

ホノルル研修

オアフ島では、夏休み中でシーズンということもあり日本人観光客がとても多く、どこに行っても日本語が飛び交うという奇妙な現象が起きていました。そのためもあって、オアフ島では日本人が働ける場が多くありました。現地で日本人のスタッフが多いということも観光客にとっても魅力にもなるのでしょう。将来、観光業の職に就くことが目標の私にとってこれから先の進路を考えるにあたり、こういう進路も可能なんだと勉強になりました。オアフ島で1番印象に残っていることは、ポリネシア文化センターを訪れたことです。そこでは、ポリネシア地域の各国の文化や生活習慣などを体験し学習することができました。離島ならではの多種多様な文化は、かけがえのないものであり久米島も同様だと確信できました。また、施設の目玉である各国の文化や踊りを取り入れたショーでは、学生1人1人が自分の生まれ育った地域の文化や歴史に誇りを持ち、生き生きとした表情で踊りや歌を披露してくれました。私は「現代版組踊」の活動に参加しているので舞台に立つ側としての目線でも参考になりました。

ワークショップでのプレゼン

久米島とハワイによる再生可能エネルギーワークショップが今年度はハワイで行われることになり、私達はその場で海洋深層水のエネルギーを利用した島の活性化についてプレゼンする機会をもうけられました。初めての取り組みということで、前例もなく手探りの状態から始まりましたが、3人でお互いに協力して仕上げることができました。当日のワークショップでは、多数の研究者の方達の前でのプレゼンということへの不安や英語でのプレゼンでもあったので、ちゃんと伝えきれるのかなと心配もありましたが、プレゼンの途中の時点で私達に拍手を送って下さった方がいて、またプレゼンを終えた後も会場から大きな拍手をもらえてとても嬉しく思いました。さらに、その後のディナーでは「もっとこうした方が面白いと思うよ。」と私達の案に興味を示してくれた方もいて頑張ったかいがあるなと思いました。プレゼンをするにあたり、事前学習にて海洋深層水の研究所で多くのことを学びました。私はこんなにも規模が大きく夢のある研究が、久米島で行われていることをずっと島で育ってきたはずなのに知りませんでした。それは今回の国際交流事業に参加したことで気付くことができたし、その研究を生かして島の活性化に繋がることを考え、国外で発信できたことは私の人生においてとても貴重な経験となりました。

ハワイでの留学で、重要なことだと感じたことが主に2つあります。1つは、「自分の意見をはっきり言えること」です。日本には、「察する」という独特の文化があります。よく選択を求められる時などに多いですが、海外にはこのような文化はありません。「Yes」か「No」かはっきりすることを求められるのです。私はそういう場面に何度か直面しました。ハワイ島に滞在して間もなくの頃、ボキャブラリーが少なくて何て言えばいいのか分からず、笑ってごまかしたりしてしまいそれを相手側もなんとなく「察する」だろう、分かってくれるだろうと思っていましたが、それが海外の人にとっては意見がないと捉えられ、相手にされないことを知りました。英語でのコミュニケーションをする上で、「察する」ということを逃げ道にしてしまうのは日本人の悪いクセだとよく言われます。文化が違うというのがありますが、国際社会が進む今、意思表示がしっかりできないと話にならないことを考えると、日本人も見習うべきではと改めて思いました。

2つ目は、「自分の故郷に関心をもつこと」です。コナ区沖縄県人会の方達と交流した際に思いました。沖縄から遠く離れた異国の地で活動を盛んにし、自分達のルーツが沖縄だということに誇りを持っている彼らを見て、故郷への思いは国境を越えても伝え続ければ、大きな実りにもなることを身に染みて感じました。私も島の発展のためこれからも島への関心を持ち続けようと強く思いました。

今回、様々な人との交流や文化を学び増々もっと広い世界をみてみたいと思うようになりましたが、それ以上に久米島を誇りに思う気持ちが強まりました。

思えば、この事業の内容はどれも島という大切な存在に気付かされるようなものばかりでした。そして、いつだって島民の思いを背負っている立場なんだということも理解できました。この事業に参加しなければ、この先も気付かなかったことがたくさんあったと思います。そんな大事な機会を与えて下さったことや、関わった全ての人々への感謝の気持ちを忘れません。

島を離れてから初めて気付いたことは我ながら情けないです。ですが、この思いを糧にこれからはさらに視野を広げ少しでも島への恩返しができるような人材になることを新たな目標に日々精進していきます。



4. OTEC ワークショッププレゼンテーション原稿

Kumejima, where we live and Hawaii have the ocean deep water research center. To aim at doing research of deep ocean water together and exchanging human resources, we started sister-city relationship in 2011. Among them, we will work together for industry, education and introducing culture each other. And exchange program of Kumejima high school and Konawaena high school began in 2013. Every year three students come to Konawaena high school. The purpose of this project is to learn English, foreign cultures, experience other climate or lifestyle, and to bring up the citizens for the globalized world. We are third exchange students from Kumejima.

There are several problems in Kumejima. First, our population is decreasing. People are worried about this problem but have not been solved. Every year, nearly 100 people of the Island move to other places. We think the reason of population decreasing is that Kumejima is not so attractive to the islanders. As a result, further appeal of the Kumejima High School can make more people stay on the island. Three of us visited the OTEC as a part of this exchange student project. After that, we thought if Kumejima High School were relocated next to the OTEC. Our high school becomes eco-friendly, and can attract the islanders. Advantages of making Kumejima “OTEC” High School

- 1, We can reduce electricity bill.
- 2, We can utilize deep ocean water.
- 3, We can grow many kinds of vegetables and fruits by using deep ocean water.

Laboratories already found the electricity bill has been reduced to make use of this. We have two Air conditioners in each class. But the setting temperature is 82 degrees Fahrenheit. So, after PE class, it is hard for us to concentrate on the class. Therefore, if we can use deep ocean water for our air conditioners, it will be more comfortable. In addition, our gym doesn't have air conditioners. So, if we have air conditioners in our gym, it can prevent us from heatstroke. Also, Kumejima High School pays about 8 million yen for electricity bill every year. We can reduce electricity bill by using thermal energy conversion, it can be approximately 1350000 yen. Now, we are using thermal power generation. However these plants emit a lot of CO₂. If we use thermal energy conversion, it won't emit CO₂. As a result, our school can be more comfortable and more eco-friendly, and can reduce electricity bill.

We have “Bade Haus Kume-island” where ocean deep water is used in Kumejima. It helps us recovery after exercising. We can also use it for the thalassotherapy, allergic

disease, rehabilitation. There are 9 clubs in our school. Even on a hot summer day, or on a cold winter day, we have a hard practice. If there are such facilities in our school, we can relax our tense muscles in this pool after hard practices. Thanks to these facilities, we can sleep well at home and on the next morning, we may wake up comfortably. If there are such facilities, we are glad. Because I belong to the basketball team, so I can use it after hard practices.

Our agriculture course can start new things if Kumejima High school moves next to OTEC. We grow leeks, green soybeans, tomatoes, and bitter melons now. We sell the crops which we harvested to local people at agriculture festival. Then, I introduce facilities. This is a greenhouse and we grow tomatoes here. This is a place for hydroponics.

This is a place to breed chickens. However, the crops we can grow depend on the climate. But we can grow many crops in every season by moving Kumejima High school next to OTEC. How do they grow spinaches? The reason is the cost of transportation. Because the leaf vegetables are light, the cost is not expensive. How can they do that? This is how it works, put pipes in the soil, cold deep ocean water flows in pipes, and it makes the soil cold. By using this system, I come up grow strawberries. We can't grow strawberries in Kumejima because of the high temperature. So, strawberries are expensive in Kumejima. So, if we can use the previous system, we can grow delicious strawberries and sell them to the local people. Because Kumejima is a small island, we should import many staffs which we can't obtain on the island. But, they are more expensive than those in the mainland. But, if we use this system, we can grow many vegetables besides strawberries I wish we can sell these vegetables to local people, and it will make our school more attractive. As a result more people will stay on the island.

Thank you for listening.